

JSCR Newsletter



日本糖質学会会報
JSCR Newsletter published by
The Japanese Society of Carbohydrate Research

2024 年を振り返って

日本糖質学会 会長 北島 健

日本糖質学会会長就任から1年が過ぎましたが、2025年を迎えるに当たり、2024年を振り返って一言ご挨拶申し上げます。2024年は、国の内外において心穏やかならぬ年であったように思います。京都清水寺の2024年の漢字は「金」でした。この漢字の光を表す「きん」と影を表す「かね」の両面からこの漢字が選ばれたようですが、私には政治の裏金問題、物価高騰と止まらぬ円安など影の部分が大きく印象に残ります。また、災いの年でもありました。2024年は元旦に能登半島地震があり被害は甚大なものでした。その上、9月には奥能登豪雨によって再び深刻な被害がもたらされ、今も復興復旧ままならない状況と聞きます。被災者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。世界に目を向け



ば、ロシアとウクライナの戦争は2022年2月の勃発から3年にならんとする現在も終結の糸口は見出されていません。イスラエルとハマスの間のガザ地区での戦争状態は2023年10月から2024年を飲み込み1年以上続いています。ようやく1月に6週間の停戦合意がなされたものの余談を許さぬ状況です。これらの災難はそれ自体がゆゆしき国際問題ですが、身近なところでも、国際便の飛行ルートが変更されて移動時間が長くなったり、海外出張の旅費が膨張したりというような影響を受けています。日本糖質学会に目を向ければ、本会の会長および理事経験者の遠藤玉夫先生が10月に急逝され、深い悲しみに包まれました。心よりご冥福をお祈り致します。遠藤先生は日本の科学を支えるお立場にあり、各方面でご活躍される中でのできごとで動揺が走り、大きな喪失感が残りました。本来2024年は、2019年から顕在化し2023年5月まで続いた新型コロナパンデミックが終結した翌年であり、心機一転となるはずの年でした。しかし、このように振り返ってみると、2024年は十分に明るいムードに転じたというようには感じられませんでした。それだけに2025年には大いに期待したいところです。

一方、日本糖質学会は、何か特別なイベントがあったわけではありませんが、着実に歩みを進めることができたと思います。9月12~14日には日本糖質学会年会在慶應義塾大学・日吉キャンパスにて戸嶋一敦先生が世話人代表として開催されました。詳細な報告はニュースレターの本号にて掲載されていますが、600名近い参加者が集まり活気ある年会となりました。昨今の異常気象の影響で猛暑が残る毎日でしたが、ポスターセッションでは150題を超える数多くの発表が行われました。とくに、この7月から本会学生会員の会費は無料となり、その効果もあり学生さんの発表数が多かったようです。また厳正な審査の上で、6名のポスター賞受賞者が選ばれました。おめでとうございます。今

回出会った同世代の仲間が今後も相互に切磋琢磨する関係に発展することを祈念します。

国際学会としては、2024年7月14～19日に中国・上海にて、31st International Carbohydrate Symposium (ICS2024) が開催されました。また、2025年5月25～30日にカナダ・エドモントンにて、27th International Symposium on Glycoconjugates (Glyco27) が開催されます。これらの学会参加には、ICS トラベル基金から旅費の支援を行っており、Glyco27については、現在、公募が開始されています。学会ホームページなどを見て応募いただきたいと思いません。日本糖質学会としては、このような国際会議への参加を、今後も積極的に支援したいと考えております。

さて、10月3日が「糖鎖の日」に制定されたことはご存知でしょうか？ これは、「糖鎖」をもっと身近なものにするため、10(とう)と3(さ)の語呂を踏まえて東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所によって提案されたものです。会員の皆様も10月3日に何か糖鎖関連のイベントを行うなど、自由な発想で臨まれたらいいかも知れません。そのような活動を通じて、糖鎖研究や知識が広く普及されることによって、糖鎖科学の重要性が日本中に認識されるようになることを期待します。

最後になりますが、2025年が会員の皆様にとって、実り多き年になりますように心より祈念いたします。

CONTENTS

■2024年を振り返って	北島 健◎1	■トラベルグラントの応募受付	◎10
■第43回日本糖質学会年会の報告	戸嶋一敦◎3	■訃報	◎10
■第6回日本糖質学会優秀講演賞	◎5	■事務局報告	
■第26回ポスター賞選考結果	◎6	理事会議事録	◎11
■第44回日本糖質学会年会開催予告	◎7	評議員会・総会報告	◎13
■第28回日本糖質学会奨励賞受賞候補者募集	◎9	■理事・評議員・名誉会員・顧問・維持会員	◎14

第43回日本糖質学会年会(横浜)を主催して

世話人代表 慶應義塾大学 戸嶋一敦

第43回日本糖質学会年会は、2024年9月12日から14日までの3日間、慶應義塾大学日吉キャンパスにある藤原洋記念ホールと来往舎において対面で開催されました。たくさんの皆様にご来場いただきましたことに感謝申し上げます。本年会を開催するにあたり、ほぼ2年前に開催の打診をいただき、実現可能かどうか、まずは会場探しから始まりました。1年前の年会で、次年度の年会のアナウンスをする必要がありますが、1年以上前に会場を予約することが、実際非常に大変でした。慶應大学の本部である三田キャンパスおよび日吉キャンパスなどにある教室棟は、どれも改修工事などの予定が立たないということで予約することが出来ませんでした。ようやく大学側の特別なはからいで、日吉キャンパスにある藤原洋記念ホール(A会場)と来往舎(B、C会場とポスター会場)を予約することが出来ました。このことを受けて、慶應大学(横浜)での開催をお引き受けすることにしました。また、本年会のスローガンを、福澤諭吉先生の「学問のすゝめ」にちなんで、「糖質科学のすゝめ」としました。このことで、世話人一同に、慶應大学の名の恥じないように準備・開催する覚悟が出来ました。その後年会の準備も、世話人の先生方のご尽力により比較的順調に進み架橋に入ったところ台風に見舞われました。要旨集が年会開始前に配布されるかどうか懸念されました。そのため、今回は要旨集の電子版を用意して閲覧できるようにしました。幸い、要旨集も年会前に配布され安堵しました。

本大会は対面で開催することが出来ました。このことを大変嬉しく思っております。中国の荘子の言葉に「無用の用」という言葉があります。これは、「一見無用に思えても実は大切なこと」を意味する言葉ですが、まさに、対面で行う年会がこれにあたりとつくづく感じました。コロナ禍オンラインでも成立する年会を、わざわざ対面で行うことは一見無用のようにも思えますが、やはり対面で行い、研究者なり人となりを、肌で実感しながら交流することが如何に大切であり、それにもまして楽しいかを実感しました。

本年会の参加者数は579人(一般382、学生197)で、多くの方に参加していただきました。また、多くの演題登録をいただきました。一般発表は、優秀講演賞第2次審査5件、口頭発表A講演21件、口頭発表B講演51件、ポスター発表155件でした。お申込みいただいたすべての発表は、希望通りのカテゴリーで発表いただけました。Carbohydrate Research JSCR43 Poster Awardを4

名の方が受賞されました。さらに、西原祥子先生と隅田泰生先生による特別講演2件、岩波敦子先生によるダイバーシティ推進セミナー1件、奨励賞受賞講演3件、ランチョンセミナー4件が行われました。本年会の開催期間は連日、季節外れの猛暑に見舞われました。ポスター会場である来往舎のイベントテラスは、開放的な広い空間ではありましたが、人の熱気も相まって、予想以上に暑くなりました。うちわが大活躍しました。皆様にご迷惑をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

本年会でも、広い交流の場として懇親会を設けました。日吉キャンパスから少し離れた新横浜にある Socia21(結婚式場)で行いました。参加者は218人でした。横浜と言いますと、何でもある代わりにこれといった特徴がないのも事実です。そこで今回は、横浜でなく、慶應大学にこだわったものを用意させていただきました。慶應大学の山形県鶴岡にある生命科学の研究所と地元の酒蔵が共同開発した純米大吟醸酒「智徳」を用意しました。参加者の皆様から大変好評をいただきました。また、これに関連して、やはり慶應グッズのひとつである「慶應の水」を、発表会場に用意しました。こちらは、富士山の玄武岩層を通ってきたバナジウム天然水です。こちらも多くの方に喜んでいただけました。世話人として、また慶應関係者として、嬉しい限りでした。

今回の年会を運営させていただくにあたり、多くの方にお世話になりました。発表者はもとより、多くの企業の方にお世話になりました。ランチョンセミナー4件、企業展示10件、広告12件、さらには、ご援助、ご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。これらのご協力なくして、本年会の成功はありませんでした。また、多くの学生に、半ばボランティアに近い形で協力していただきました。感謝します。さらには、世話人代表として、世話人会のメンバー(藤本ゆかり先生、清水史郎先生、松原輝彦先生、高橋大介先生、佐々木要先生、松丸尊紀先生、川原遼太先生、筒井正斗先生)に感謝します。ご多忙の中、時間を惜しまず多大なご尽力をいただきました。これによって、慶應大学で糖質科学を担う研究室間の結束が一段と高まった気がします。そして何より、本年会にご協力いただいた参加者全員に感謝申し上げます。今は、無事、本年会を終えたことに安堵しています。本年会が、皆様によって有意義なものであり、糖質科学のさらなる発展に少しでもお役に立てたのであれば望外の喜びです。ありがとうございました。最後になりますが、第44回年会(弘前)の盛会をお祈り致します。



開会式



A会場



B会場



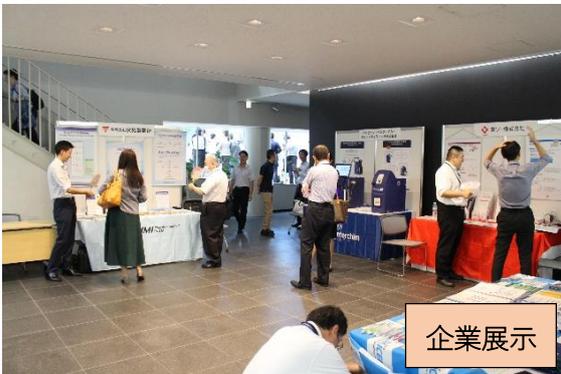
C会場



ポスター会場



懇親会



企業展示



世話人

第 6 回 日本糖質学会優秀講演賞(今年度の選考結果について)

授賞選考委員 安藤 弘宗
鈴木 匡
藤本 ゆかり

日本糖質学会優秀講演賞は 2018 年に新設された賞ですが、応募資格者は本会の学生会員、または 32 歳未満の正会員であり、発表内容、発表法、質疑応答において優れた講演を行い、今後、糖質科学の発展に寄与すると期待される方です。また本賞は研究テーマや所属研究室を審査対象とするものではなく、グループ研究の場合は発表者の貢献が大きいことが認められる場合に限っています。

日本糖質学会優秀講演賞の審査については、書類選考と糖質学会年会会場での発表審査の 2 段階選抜方式をとっています(詳細は 糖質学会の HP でご確認ください; https://www.jscr.gr.jp/?page_id=146)。書類選考においてはライフイベントなどについても考慮され、口頭発表においては一般講演に比べ長い質疑時間が与えられます。二次審査において発表を行ったファイナリストの方々に対してはファイナリスト証を発行します。

本年度は第 43 回日本糖質学会(2024 年 9 月 12 日～9 月 14 日(横浜):戸嶋一敦代表世話人のもと開催)において、一次選考を通過したファイナリスト 5 名が口頭発表を行いました。授賞委員会が厳正なる選考を行い、その後、理事会の議を経て、下記 2 名の方々を受賞者と決定いたしました(敬称略)。表彰は、2025 年度総会(2025 年の第 44 回年会(弘前)中に開催)にて行う予定です。惜しくも選に漏れた方々の発表も素晴らしいものでした。次回年会でも多数の申し込みと活発な質疑を期待しております。

末吉 耕大(慶應義塾大学大学院理工学研究科 博士後期課程 3 年)
「修飾型スフィンゴ糖脂質による脂質抗原提示における脂質構造と免疫調節機能」

中川 貴博(名古屋大学大学院生命農学研究科 博士後期課程 3 年)
「*Sphingobacterium* 属細菌におけるデアミノノイラミン酸 (Kdn) 特異的代謝の重要性」

(50 音順)

第 26 回 日本糖質学会ポスター賞(今年度の選考結果について)

授賞選考委員 安藤 弘宗
鈴木 匡
藤本 ゆかり

本賞は日本糖質学会におけるポスター発表者で 35 歳以下の会員の中から 4 件程度を選び「日本糖質学会ポスター賞」として表彰し、副賞としてシアル酸研究会からの賞金を贈呈するものです(詳細は、糖質学会ポスター賞規程をご覧ください; https://www.jscr.gr.jp/?page_id=146)。本年度は第 43 回日本糖質学会(2024 年 9 月 12 日~14 日、横浜において戸嶋一敦代表世話人のもと開催)のポスターセッションの演題の中から、予め発表申し込み時点で申請のあった 88 題(全発表件数 155 題)を対象に、発表要旨、ポスターの出来栄、発表内容および質疑応答などの諸点を踏まえ、選考委員による投票を行い、授賞選考委員が事務局員立ち会いのもと厳正に開票・集計を行いました。その結果、今年度は下記 6 名の方々に受賞者と決定いたしました(敬称略)。表彰は、2025 年度総会(2025 年の第 44 回年会(弘前)中に開催)にて行う予定です。惜しくも選に漏れた方々の発表も素晴らしいものでした。次回年会でも会員の皆様多数の申し込みをお願いいたします。最後に、2 日間にわたり選考にあたって下さった選考委員の方々に改めて御礼申し上げます。

椛澤 颯馬(岐阜大学大学院自然科学技術研究科)
「二環性レジオナミン酸供与体を用いた完全な α 選択的グリコシル化法の開発研究」

Jinbo Shim(名古屋市立大学大学院薬学研究科)
「巨大ウィルスの糖鎖修飾プロファイル」

筒井 正斗(公益財団法人野口研究所(現 慶應義塾大学理工学部))
「ガレクチン 4 阻害剤を指向したラクトース誘導体の分子構築と親和性評価」

中山 健太郎(東京農工大学大学院農学府)
「神経活動依存的なアグリカン遺伝子の発現がペリニューロナルネット形成を促進する」

籾 祥太(静岡県立大学大学院薬学研究院)
「新規抗パーキンソン病薬の開発を志向したラット脳におけるシアリダーゼアインザイム NEU2 の機能解析」

平野 雄基(慶應義塾大学大学院理工学研究科)
「自然免疫受容体 CLR リガンド糖脂質の糖鎖修飾反応開発と細胞イメージングへの展開」

(50 音順)

第 44 回 日本糖質学会年会(弘前)開催予告

世話人代表 弘前大学 大山 力

第 44 回日本糖質学会年会を、2025 年 10 月 2 日(木)～4 日(土)に、弘前文化センター(青森県弘前市)で開催させていただきます。これまで本年会は仙台で 4 回開催されておりまして、東北地方開催としては 5 回目となります。糖質学会年会を弘前で開催させて頂けますことは、身に余る光栄でございます。皆様にご満足頂けるよう世話人一同鋭意準備を進めさせて頂きます。

さて、弘前大学医学部には檜山 登先生、遠藤正彦先生、高垣啓一先生という複合糖質研究の力強い系譜があり、現在は柿崎育子先生に受け継がれております。私は 1984 年に弘前大学医学部を卒業し、東北大学泌尿器科学講座に入局しました。同年、東北大泌尿器科からシアトルの箱守仙一郎先生のもとに留学していた福士泰夫先生が帰国され、泌尿器癌における糖脂質発現の研究指導を頂いたことが私と糖鎖生物学との出会いになります。1996 年から 1998 年まで、San Diego 郊外にある La Jolla Cancer Research Center に留学し、福田 穰 先生、福田道子先生にご指導頂きました。同研究所は、Burnham Institute、Sanford Burnham Institute、Sanford Burnham Prebys Medical Institute と名称を変え現在に至っております。



その後、私は秋田大学を経て、2004 年に弘前大学泌尿器学講座に赴任しました。弘前には遠藤正彦先生がいっぱいいます。糖脂質から始まった私の糖鎖研究は La Jolla で糖タンパク質へと幅を広げ、弘前でさらにプロテオグリカンが加わり、徐々に研究の対象が広がっております。現在では、Sanford Burnham Prebys Medical Institute の Yu Yamaguchi 先生のもとに留学生を派遣し、ヒアルロン酸の研究をさせて頂いております。今回、弘前大学泌尿器科学講座の後任教授である畠山真吾先生が世話人副代表を務めさせて頂きます。畠山先生も La Jolla の福田研でポストドクを経験した糖鎖研究者です。

糖質学会年会は糖質に関する化学系研究者と生物系研究者との交流の場として大変貴重な領域横断的学術集会です。自然科学や科学技術は常に最先端を目指して進歩し続けますが、同時に研究領域もピンポイント的になっていきます。私たちの関心領域も専門性の名のもとに狭小化する傾向になりがちですが、他領域との交流が新たなブレークスルーになることも多いのではないかと考えております。そこで、今回の年会は、材料科学研究者と生命科学研究者、そして臨床医学系研究者との交流をさらに深めて頂きたいとの願いを込めて「糖質科学と臨床医学の融合」とさせて頂きました。糖質科学のさらなる発展と隆盛を祈り、実り多い学術集会にするため精一杯尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

会期:2025 年 10 月 2(木)～4 日(土)

会場:弘前文化センター 〒036-8356 青森県弘前市下白銀町 19-4

URL: <https://www.jscr44.com/>

主要題目

糖鎖とがん、糖鎖と免疫学、糖鎖と感染症、糖鎖と病理学、糖質の化学、糖質の生化学、糖質の構造生物学、糖質の

化学生物学、糖鎖研究とバイオインフォマティクス、糖質の材料科学、糖質の反応と計算科学、糖質科学研究成果の社会実装、産学連携

年会の構成

特別講演、日本糖質学会奨励賞受賞講演、ダイバーシティ推進セミナー、優秀講演者第2次審査、一般発表、ランチョンセミナー、テクニカルセミナー、企業展示等。

一般発表には以下のカテゴリーがあります。

- (1) 口頭発表 A (20-25 分) 1 研究室あたり 1 件。
- (2) 口頭発表 B (12-15 分) 研究室当たりの発表研数に制限なし。
- (3) ポスター発表 研究室当たりの発表件数に制限なし。

一般発表の発表形式に対し、採否は世話人会にご一任ください。

参加・発表申込み: 申込方法、発表の方法の詳細は 2025 年 4 月中に学会 HP の年会専用ページに掲載予定。

発表申込み期間(予定): 2025 年 5 月 1 日～6 月 30 日

発表採択の通知: 発表受付終了後、1か月程度で演者に e-mail で通知。

参加登録料(予定): <>内は 2025 年 8 月 1 日以降申込みの金額。

日本糖質学会正会員: 7,000 円<9,000 円>、日本糖質学会学生会員: 2,000 円<4,000 円>、一般: 10,000 円<12,000 円>、一般学生: 3,500 円<4,000 円>、名誉会員: 無料、永年会員: 3,500 円<4,500 円>

共催・協賛・後援の学会の規定により、共催・協賛・後援の学会の学会員は、日本糖質学会会員と同額の参加登録料で参加できます。

託児室: 会期中、託児施設を開設予定。

第 28 回日本糖質学会奨励賞 受賞候補者募集

授賞選考委員 安藤 弘宗
鈴木 匡
藤本 ゆかり

第 28 回日本糖質学会奨励賞受賞候補者の選考を開始します。

受賞候補者の資格:糖質科学の分野で優れた研究成果を挙げた満40歳以下(2025年7月1日現在)または学位取得後10年以内の研究者で、2023年7月1日以前から継続して本会会員であること。ただし、出産、育児、介護のようなライフイベントを考慮する。

日本糖質学会奨励賞募集の方法:以下に示す2段階で行われます。

1. 本会会員による候補者の推薦

会員は、自薦、他薦を問わず候補者1名を推薦できます。氏名、所属機関・研究室名と所在地、TEL/FAX、メールアドレス、A4用紙1/2程度の業績の説明文、代表的な発表論文2ないし3報(タイトル、氏名、雑誌名、掲載年)をA4判に記し、jscr.office@gmail.com までメールでお送り下さい(メールの場合、事務局からの受理通知を確認してください)。

締切:2025年2月3日(月)(必着)

2. 授賞選考委員会による候補者の選出

理事会にて選出した委員による授賞選考委員会が、会員からの被推薦者の中から原則として10名以内の候補者を選び、候補者本人に下記応募書類(1~4)の事務局への提出を依頼します。

応募書類(候補者本人から提出):

- 1) 所定の様式の応募書類(本会事務局より候補者本人に送付)
- 2) 研究概要の紹介本文(図表を含めてA4用紙3枚以内厳守)
- 3) 関連論文リストA4用紙に著者(本人に下線)、論文題目、誌名、巻、ページ(初めと終わり)、掲載年を記載
- 4) 主な論文3編以内の別刷りもしくはその写しを各1部

選考と発表の方法:選考は授賞選考委員会にて行い、受賞者は理事会にて決定後にJSCRニューズレター誌上に発表し、表彰は総会(第44回日本糖質学会年会(弘前);2025年10月2日~4日)にて行う予定です。

提出先:

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-12 油商会館B棟3階

日本糖質学会事務局

問合せ:e-mail:jscr.office@gmail.com

The 27th International Glycoconjugate Symposium (Glyco27) トラベルグラントの応募受付

ICS2010 記念糖質科学基金担当理事(Glyco 担当) 鈴木 匡

2010年に日本で開催された第25回 International Carbohydrate Symposium (ICS2010)を記念し、設立された基金の運用が、2012年より開始されました。その趣旨に基づき、下記の要領でトラベルグラントの応募を受け付けます。

名称: ICS2010 記念糖質科学基金

趣旨: 本基金は我が国における糖質科学分野の国際化に資する目的に使用する。

用途: 若手研究者の国際糖質シンポジウムおよび国際複合糖質シンポジウムにおける旅費の援助を行う。

応募資格: 日本糖質学会の会員であり、国内の研究機関に所属し、大学院生として在学中、あるいは博士号取得後8年以内程度もしくはそれと同等の研究歴を持ち、The 27th International Glycoconjugate Symposium (Glyco27, Edmonton; <https://www.glyco27.org/en/homepage>)において口頭発表(招待講演を除く)を行う方。ただし、応募多数の場合は、大学院生及び若手のポスドクを優先的に考慮する。本基金以外からの助成を受ける方は対象外と致します(応募中で採否未定の方はその由記載ください)。

件数: 2件程度 助成額: 1件あたり25万円程度を上限とする(その時期の見積書をもとに援助額を決定する)。但し、旅費の全額支給を保証するものではありませんのでご注意ください。指導教員(PI)あるいは所属機関の事務と相談の上、他財源からの補助と合わせての旅費の支出をお考えください。

必要書類: (1) Glyco27における発表の要旨、(2) 口頭発表採択を証明するもの、(3) 履歴書、(4) 業績リスト、(5) 指導教員もしくはそれに準ずる方の推薦書(A4で1枚程度)。以上をメール添付にて日本糖質学会事務局(jscr.office@gmail.com)に送付。

* 可能な限り、上記5点を一つのPDFファイルにしてお送りください。

応募締め切り: 2025年3月28日(金)(ただし、アブストラクト採択通知状況によって延長されることがあります)

その他: Grantの受領者には、糖質学会ニュースレターに学会報告を書いております。

以上、多数のご応募をお待ちしています。

訃報

本学会名誉会員 遠藤 玉夫 先生におかれましては、2024年10月9日にご逝去されました。
ご冥福をお祈り申し上げますとともに、謹んでお知らせいたします。

弘前市にて大山力世話人代表のもと開催することが承認された。その後、大山世話人代表から「糖質科学と臨

床医学の融合」をテーマに、2025年10月2日～4日の日程で、弘前文化センターで開催することが報告された。

令和6年度役員(任期2024.7.1～2025.6.30)

理事 安藤 弘宗
 梶原 康宏
 加藤 晃一
 蟹江 治
 北島 健
 北爪 しのぶ
 佐藤 ちひろ
 鈴木 匡
 藤本 ゆかり
 松尾 一郎
 監事 石田 秀治
 深瀬 浩一

片山 高嶺 京都大学大学院生命科学研究科
 加藤 敦 富山大学附属病院薬剤部
 加藤 啓子 京都産業大学生命科学科
 加藤 晃一 自然科学研究機構生命創成探究センター
 金川 基 愛媛大学大学院医学系研究科
 金森 審子 東海大学工学部
 蟹江 治 東海大学工学部
 樺山 一哉 大阪大学放射線科学学際研究センター
 鎌田 佳宏 大阪大学大学院医学系研究科
 亀井加恵子 京都工芸繊維大学分子化学系
 亀山 昭彦 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 川崎 ナナ 横浜市立大学大学院生命医科学研究科
 川島 博人 千葉大学大学院薬学研究院
 北岡 本光 新潟大学農学部
 北川 裕之 神戸薬科大学薬学部
 北島 健 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 北爪しのぶ 福島県立医科大学保健科学部
 木塚 康彦 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 木下 聖子 創価大学理工学部
 顧 建国 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 小谷 典弘 埼玉医科大学医学部
 坂元 一真 愛知県医療療育総合センター
 佐藤あやの 岡山大学学術研究院
 佐藤 武史 長岡技術科学大学生物系
 佐藤ちひろ 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・生命農学研究科
 塩崎 一弘 鹿児島大学水産学部
 篠原 康郎 金城学院大学薬学部
 島本 啓子 公益財団法人サントリ一生命科学財団
 清水 史郎 慶應義塾大学理工学部応用化学科
 清水 弘樹 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 鈴木 匡 理化学研究所開拓研究本部
 高橋 素子 札幌医科大学医学部
 武内 智春 愛知学院大学薬学部
 竹内 英之 静岡県立大学薬学部・大学院薬学研究院
 竹川 薫 九州大学大学院農学研究院
 武田 陽一 立命館大学生命科学部
 竹松 弘 藤田医科大学医療科学部
 館野 浩章 産業技術総合研究所細胞分子工学研究部門
 田中 克典 理化学研究所開拓研究本部
 田中 浩士 東京工業大学物質理工学院
 田村 純一 鳥取大学農学部

評議員 (任期2024.7.1～2025.6.30)

相川 京子 お茶の水女子大学基幹研究院自然科学系
 赤井 昭二 女子栄養大学応用有機化学研究室
 芦田 久 近畿大学生物理工学部
 荒田洋一郎 帝京大学薬学部
 安藤 弘宗 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 池田 義孝 佐賀大学医学部
 池原 譲 千葉大学医学部
 石田 秀治 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所
 石水 毅 立命館大学生命科学部
 和泉 雅之 高知大学理工学部
 板野 直樹 京都産業大学生命科学部
 一柳 剛 鳥取大学農学部
 糸乗 前 滋賀大学教育学部
 稲森啓一郎 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 井原 義人 和歌山県立医科大学医学部
 上村 和秀 中部大学生命健康科学部
 大谷 克城 酪農学園大学農食環境学群
 大坪 和明 熊本大学大学院生命科学研究部
 大橋 貴生 摂南大学理工学部生命科学科
 大海 雄介 中部大学生命健康科学部
 岡島 徹也 名古屋大学糖鎖生命コア研究所・医学系研究科
 岡本 亮 成蹊大学理工学部理工学科
 越智 里香 高知大学教育研究部
 柿崎 育子 弘前大学大学院医学研究科
 笠原 浩二 東京都医学総合研究所細胞膜研究室
 梶原 康宏 大阪大学大学院理学研究科
 梶本 哲也 立命館大学薬学部

千葉 靖典 産業技術総合研究所生命工学領域
 梅谷内 晶 創価大学理工学研究科
 戸嶋 一敦 慶應義塾大学理工学部
 戸谷希一郎 成蹊大学理工学部
 豊田 英尚 立命館大学薬学部
 豊田 雅士 東京都健康長寿医療センター研究所
 中川 優 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 中北 慎一 香川大学医学部総合生命科学講座
 中嶋 和紀 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 中野 博文 愛知教育大学自然科学系化学
 中の三弥子 広島大学大学院統合生命科学研究所
 長束 俊治 新潟大学理学部
 西島 謙一 名古屋大学大学院生命農学研究科
 蜷川 暁 神戸大学バイオシグナル総合研究センター
 野上 敏材 鳥取大学学術研究院工学系部門
 野中 元裕 京都大学大学院医学研究科
 羽田 紀康 東京理科大学薬学部
 花島 慎弥 鳥取大学工学部
 濱村 和紀 愛知学院大学歯学部薬理学講座
 原田陽一郎 大阪国際がんセンター研究所
 東 伸昭 星薬科大学薬学部
 比能 洋 北海道大学大学院先端生命科学研究所
 平井 剛 九州大学大学院薬学研究科
 深瀬 浩一 大阪大学大学院理学研究科
 藤田 盛久 岐阜大学糖鎖生命コア研究所
 伏信 進矢 東京大学大学院農学生命科学研究科
 藤本ゆかり 慶應義塾大学理工学部
 藤山 和仁 大阪大学生物工学国際交流センター
 古川 潤一 名古屋大学糖鎖生命コア研究所
 北條 裕信 大阪大学蛋白質研究所
 保坂 善真 九州大学大学院農学研究科
 細野 雅祐 東北医科薬科大学分子認識学教室
 前田 恵 岡山大学大学院学術研究院
 松尾 一郎 群馬大学大学院理工学府
 松岡 浩司 埼玉大学大学院理工学研究科
 松野 健治 大阪大学大学院理学研究科
 松原 輝彦 慶應義塾大学理工学部
 眞鍋 史乃 星薬科大学薬学部
 萬谷 博 東京都健康長寿医療センター研究所
 三浦 佳子 九州大学大学院工学研究院
 水野 真盛 (公財)野口研究所糖鎖有機化学研究室
 三苫 純也 九州保健福祉大学生命医科学部
 宮田 真路 東京農工大学農学部
 宮西 伸光 東洋大学食環境科学部
 三善 英知 大阪大学大学院医学系研究科

門出 健次 北海道大学大学院先端生命科学研究所
 矢木 宏和 名古屋市立大学大学院薬学研究科
 矢部 富雄 岐阜大学応用生物科学部・糖鎖生命コア研究所
 山口 拓実 北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科
 山口 真範 和歌山大学教育学部
 山口 芳樹 東北医科薬科大学分子生体膜研究所
 山地 俊之 国立感染症研究所細胞化学部
 山田 一作 公益財団法人野口研究所糖鎖情報科学研究室
 山田 修平 名城大学薬学部・病態生化学研究室
 湯浅 英哉 東京工業大学大学院生命理工学研究科
 吉田 雪子 東京都医学総合研究所ヒトゲノムプロジェクト

名誉会員

池中 徳治	石戸 良治	伊東 信
伊藤 幸成	稲津 敏行	遠藤 玉夫
小川 智也	小川 温子	笠井 献一
門松 健治	川寄 敏祐	木曾 真
木下 タロウ	木全 弘治	楠本 正一
木幡 陽	鈴木 明身	鈴木 邦彦
鈴木 茂生	鈴木 康夫	隅田 泰生
谷口 直之	成松 久	西原 祥子
橋本 弘信	長谷 純宏	古川 鋼一
本家 孝一	村松 喬	山形 達也
山本 憲二		

顧問

一島 英治

維持会員

KHネオケム (株)
 (一財) 杉山産業化学研究所
 (株) スティックスパイオテック
 住友ベークライト (株)
 生化学工業 (株)
 MP五協フード&ケミカル (株)
 東京化成工業 (株)
 (公財) 野口研究所
 (株) 伏見製薬所
 松谷化学工業 (株)
 (株) ヤクルト

JSCR Newsletter (日本糖質学会会報) Vol. 28, No. 2

2025年1月27日 発行

編集兼発行 日本糖質学会

会長 北島 健

〒103-0014 中央区日本橋蛸殻町1-38-12

油商会館3F

TEL: 03-5642-3700

FAX: 03-5642-3714

JSCR Newsletter 編集委員会

加藤 晃一

蟹江 治